Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 15 号

●英語関係図書

資料センターで所蔵する江戸・明治期発行の英語関係文献のうちの６点
『英語階梯』（慶応２年）
『袖珍　英和節用集　全』（明治４年）
『英文尺牘活法　全』（明治21年）
『附音挿図　英和字彙』（明治6年）
『通俗英文典』上中下（明治5年）
『英語通弁階梯　初編』（明治2年）

資料センター所蔵資料紹介
幕末から明治初期に開花した英学の証し　緒方孝文 ―2
青山学院構内を流れていた「春の小川」　清水信行 ―4
資料センター利用状況・日誌抄 ―6
受入れ資料 ―7
利用案内 ―8

幕末から明治初期に開花した英学の証し

大学教育人間科学部教授　緒方孝文

五か国条約が締結された翌年の安政六年（1859）に横浜を訪れた福沢諭吉は、それまで死物狂いになって勉強したオランダ語が役に立たないことに衝撃を受け、代わって英語を身につけようと一大決心をした。しかし、江戸中を探しても英語を教えてくれるところがないばかりか、英蘭対訳の字書（ママ）を利用しようとしても蕃書調所（バンショシラベショ）（幕府の洋学研究所）から持ち出せないことに難儀し、英語が達者な漂流民や子どもをつかまえて習おうかとさえ考えた（『福翁自伝』）。攘夷派の動向が気になりつつも、世の中が一気に蘭学から英学志向に変わっていった時代のことである。

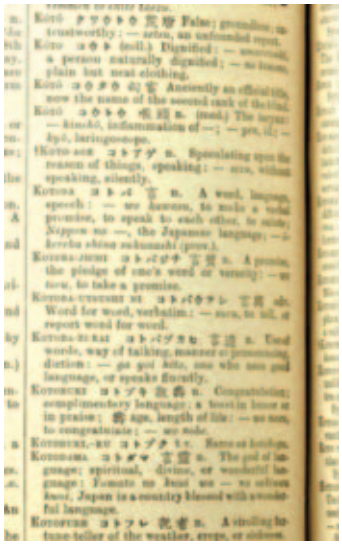
同じ安政六年に蕃書調所（のちに洋書調所と改称、さらに開成所に改組）の対訳辞書編纂主任となったのが、ペリー来航時にオランダ語通詞として活躍した堀 達之介で、『英蘭対訳辞書』を底本に用いた日本初の本格的な英和辞書とされる**『英和対訳袖珍辞書』**を文久二年（1862）に完成させた。本学院資料センターの所蔵本は慶応二年（1866）に上梓された改正増補版（**写真1**）である。袖珍（シュウチン）（pocketの日本語訳）とは名ばかりで、縦15cm× 横19cm × 厚さ6cm（和装丁和紙刷998頁）の体裁は、決して着物の袖に入れて持ち運べるほど小さくはない。堀による見事な英文で書かれた初版の序文は再版序文にも併記されているが、「今やわが国で英語学習が急速に普及してきたので…」と本辞書の出版が開国に伴う時代の喫緊な課題に応えたものであることを述べるとともに、最後で「次版で改訂するためのあらゆる便宜を得るように、どんな誤りも指摘されるよう」読者に求めており、重版によってますます内容を充実させようとする意気込みが感じられる。

① 表紙とタイトルページ

②
日本語の語義の表記はまだ縦組みである。各見出し語の後には品詞記号（自動詞/ 他動詞の区別を含む）が書かれ、句用例やイディオムもわずかだが見られる

『英和対訳袖珍辞書』改正増補版　慶応２年（1866）（写真1）

①タイトルページ



② 日本語はヘボンの手稿段階から横組みであったと言われる。『万葉集』の中で取り上げられている「言挙げ」や「言霊」といった語の見出しも見られる

『和英英和語林集成』（第３版）
明治19年（1886）（写真2）

しかし、辞書の体裁としては大きな一歩を踏み出したものの、『英和対訳袖珍辞書』は基本的には『英蘭対訳辞書』の焼き直しにすぎないために独創性に欠けていた。これに対し、慶応三年（1867）に上梓された平文編**『和英語林集成』**（**写真２**はその改正増補版の**『和英英和語林集成』**）は、『ヘボン辞書』という通称を得て、現代の国語辞書編纂にさえ大きな影響力をもつほど質量ともに大きな前進を遂げている。編著者のJames Curtis Hepburnは奇しくも安政六年に米国から日本にやってきた宣教師であるが、本辞書の作成を宣教目的と限定するのは狭い解釈であるし、また和英辞典を英和辞典の従属的産物と現代風に解釈してはこの辞書の本領を見失うことになる。事実、初版では索引だけで

木版画によるカラーイラストも鮮やかで楽しく単語を覚えられる
『英語図解』明治20年（1887）（写真3）

あった巻末の英和部分が再版からは英和辞書として立派に独立しており、皮洋装丁の背や表紙に書かれている英文もA JAPANESE-ENGLISH AND ENGLISH-JAPANESE DICTIONARYと変わっている。初版の見出し語数は和英が約20,800語、英和が約10,000語であるが、それぞれ第三版では約1.5倍に増えている。植物学、生物学、医学、法学、数学等の幅広い分野にわたる語彙をはじめ、擬声語・擬態語、俗語、方言まで取り入れられ、さらに『古事記』や『万葉集』に使われた文学的古語や廃語・死語まで扱われている。

『ヘボン辞書』が画期的なのは、先行辞書からの孫引きではなく、編者自らが貧富の差を問うことなく、市井の日本人との接触のなかで見聞きした生きた語彙の蒐集を基本としている点である。句用例が格段に充実しているのもその証拠で、たとえば「口」の項では「口を開く」に始まり、「口がすべる」「糸の口が開いた」「口をそろえて」「悪口を言う」「奉公の口がない」「口がかかる」「とっくりに口をする」「口で売る」…、さらには「口は禍のかど」や「人の口に戸は立てられぬ」といったことわざまで列挙されている。SHIMBUN（シンブン 新聞）のM とSHINTAI（シンタイ 身体）のNが区別されているように、米国人ならではの耳を生かしたいわゆるヘボン式ローマ字が採用されていることも当時としては新鮮である。この時代にすでに見出し語として、SHIN-YA（深夜）のように句読符号が付けられ、またSUKUNAI, -KI -KU -SHI（少）のように活用形で表示されていることにも驚愕する。ヘボンの意図は、日本人への英語教化だけではなく、日本に渡来する英語母語話者に対する日本語教化にもあったことは明白で、彼らにとって難解なHATAKE（圃）→ imo batake, hana-batakeといった複合名詞での語形変化や、IKKO（一向）→ SAPPARI, HITASURAのような同意語の積極的記述は、単語の正確な活用や語彙の増強といった辞書本来の目的に適った機能を重視している表れである。

1755年に英国ではじめて本格的な『英語辞典』（A Dictionary of the English Language）をほぼ独力で編纂したSamuel Johnsonは、その「序文」のなかで語彙を蒐めることがもっとも大変だったと述べているが、用例をいかに多く蒐め、それを語義として帰納的に分類するという気の遠くなるような作業の跡が、約100数年後に日本で生れた『ヘボン辞書』にも見られるのである。

もちろん、こうした大辞典の周辺には、蘭学に代わる英学熱をさらに煽るかのように、個々の用途や目的に応じた単独の学習書が少なからず世に出ている（表紙）。語彙・単語集の多くには「**附音**」や「**挿図**」「**図解**」「**図絵**」といった文言が付記されており、カタカナによる発音表記とともに、色彩豊かな木版刷によるイラストが読者の目を楽しませてくれる。（**写真3**）「節用集」はもともと室町時代に始まった国語の用語・用字集のことであるが、初期の英和・和英字書にも「いろは順」による配列や「部門別」による分類といった形で反映されている。

初期の英学書の題名によく見られる「階梯（カイテイ）」とはもともとは「はしごだん」の意味で、語学学習の初級者を対象とした「入門書」「手引き」くらいの意味で使われている。「訓蒙（キンモウ）」も初級者を教えさとすことで、初級者用の学習書によく付けられる。また、文法書の普及も急速で、「**文範**」や「**文典**」というタイトル表記がされている。

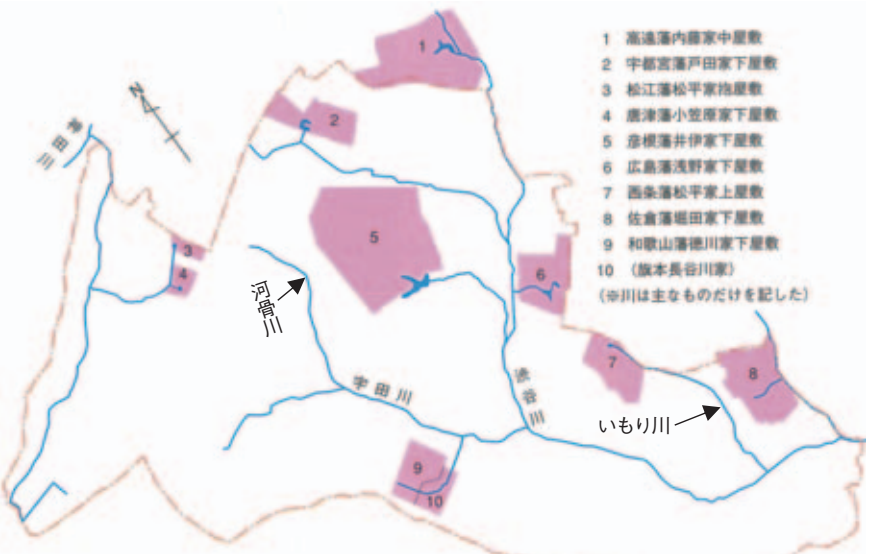
樋口一葉が『通俗書簡文』から、また英国ではSamuel Richardsonが手紙の代筆業から作家活動を始めたように、書簡文（書翰文）は人間の心情の素直な流露であるとともに時代の社会的風潮をも表す鑑である。明治期における英作文の学習書のなかには手紙の文例集が多く含まれている。「尺牘（セキトク）」とは書簡、書状のことで、古代中国で書簡として用いた「牘」と呼ばれる木札が１尺四方であったことによる。

本学院資料センターには、幕末から明治初期にわたる英学流入の痕跡を示す貴重な英学書が多数保存されている。なかには青山学院大学の前身である東京英和学校の蔵印が押されているものもあり、明治初期をピークとする英学の興隆熱が本学の英語教育にも引き継がれていることを痛感させられる。

青山学院構内を流れていた「春の小川」

大学文学部史学科教授　清水信行

国文学者高野辰之の作詞で知られる唱歌「春の小川」は渋谷川の支流、河骨川（こうほねがわ）が舞台であるという（田原光泰著「春の小川」はなぜ消えたか－渋谷川にみる都市河川の歴史－㈱之潮（これじお） 2011年）。この田原氏の著書を参照･要約（斜字部分）しながら、暫く学院の校地内にもその支流（いもり川）が流れていた渋谷川流域の地理的・歴史的環境を見てみよう。



図① 渋谷川 本・支流の水源となっていた主な大名屋敷
『「春の小川」の流れた街・渋谷』白根記念渋谷区郷土博物館・文学館特別展図録（平成20年）p24より

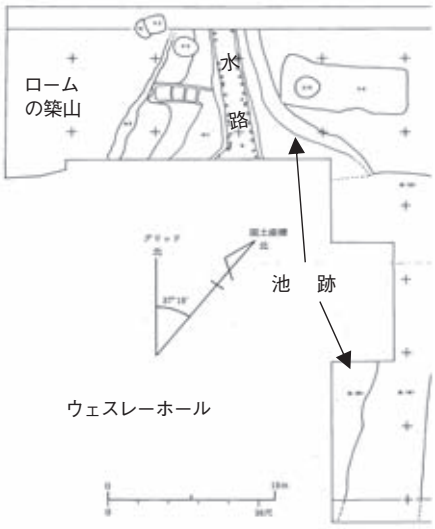
渋谷川・古川水系は武蔵野台地東端に水源をもち、現在の渋谷区・港区を通って東京湾に注ぐ。今は上流を渋谷川、下流を古川と呼んでいるとのことである。この川が流れる台地は淀橋台と呼ばれ、下末吉面台地の一つである。下末吉面の台地は、谷が密で複雑に広がり、起伏が多く、坂が多いとされる。渋谷川とその支流の流域には、渋谷、千駄ヶ谷、鶯谷、富ヶ谷、代官山、鉢山、緑岡、桜丘、南平台、円山、神山など、地形が起伏に富んでいることを表す地名が多くみられるという。江戸の町はこの渋谷川の東方に形成された。江戸の図（前掲書 図2）をみると、江戸の市街地の西側を囲むように、上流の渋谷川は描かれていることが分かる。この渋谷川の流域は江戸の西端部にあたる。即ち、渋谷川とその支流は、明治のころまで都心と郊外の境界を流れ、大正時代までは水田の中をさらさらと流れる小川が数多くみられたということである。このような田園風景が山の手の地域が副都心化することで、また、東京オリンピックの開催のために、小川が暗渠となり、下水道化することで消えていってしまったという。

唱歌「春の小川」の舞台となった河骨川は、先の田原氏の著書によると、小田急線代々木八幡駅の付近で宇多川本流と合流する。そこからかつての河骨川は北に向かい、小田急線の線路脇に行きあたる。暫く線路沿いを進むと、御影石の「春の小川」の石碑が見えてくるという。参宮橋駅の手前で川は小田急線を越える。これをさらに北に進むと、旧土佐藩山内侯爵邸の屋敷地の池に行きあたっていたという。残念ながらマンション建設のため、この小川の水源であった池は姿を消してしまった。この河骨川は今、道路の下に下水道管として残っており、かつての川筋は地形を辿ることにより窺うことができるという。

図①をみると、山の手の小川の水源が、江戸時代の大名屋敷内にあったことが目につく。その理由は明らかではないが、屋敷内に住む大名や家臣たちの食事や生活のための水が必要であり、井戸は言うに及ばず、湧き水のあるところに屋敷地を選んでいたということも考えられる。

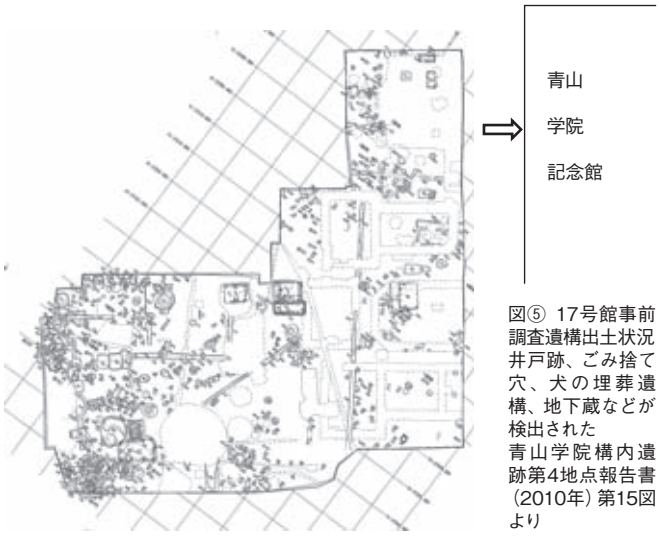
さて、わが青山学院の校地に目を向けてみよう。図①のいもり川の水源が、青山学院構内にあったことが分かる。その位置は図②の●印あたりであると考えられる。1991年から92年の青学会館増改築に伴う発掘調査（青山学院構内遺跡－伊予西条藩松平家上屋敷の調査－青山学院構内遺跡調査委員会　1994）によって図③の様な水路の跡がウェスレーホールの東側を取り囲むように見つかった。この地区はこの上屋敷の苑地であったと考えられ、水路の西側にはきれいなロームを積んだ築山状の盛り土がなされ、水路に降りる緩やかな階段遺構も検出された。明治19年の図④にも、丁度この位置に小島を持つ池が描かれており、調査で検出された池の跡はこの図のものと考えられる。この水路は、北西(記念館)の方向にのびており、図②●印の水源に向かっている。この周辺西側からは井戸跡、ごみ捨て穴、犬の埋葬遺構、地下蔵などが多数見つかっており（図⑤）、この水源を用いた上屋敷の厨房があったものと思われる。水路はこの水源から池に向かい、池を貫通して講堂と中等部の並ぶ道路沿いに進み、首都高速をくぐり抜けて常陸宮邸、東京女学館、羽沢橋を通って、明治通りを越して渋谷川に合流する。これが**いもり川**であり、かつての江戸の西に位置した大名屋敷や田園風景の中を**さらさら**と流れていたものと思われる。ただ、かつての面影は既にみられなくなっており、残念である。青山学院構内に、「春の小川」が**さらさら**と流れていたことだけは記憶に留めておきたい。

図② 松平左京大夫（伊予西条藩松平家上屋敷）



図③ 上屋敷内 池に流れ込む水路

図④ 明治19年内務省地理局版「実測東京全図」
青山学院構内遺跡報告書（1994年）第5図より



図⑤ 17号館事前調査遺構出土状況
井戸跡、ごみ捨て穴、犬の埋葬遺構、地下蔵などが検出された
青山学院構内遺跡第4地点報告書（2010年）第15図より

2016年度前期利用状況

1. 月別利用者数（　）内は前年度の数

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
展示見学者数		409	(377)	261	(214)	448	(535)	250	(305)	413	(620)	91	(161)	1872	(2212)
ブックスキャナ利用		0		0		0		0		0		0		0	
3Dスキャナ利用		0		0		0		0		0		0		0	
3Dプリンタ利用		0		0		0		0		0		0		0	
資料閲覧者数		12	(4)	15	(7)	22	(11)	32	(20)	16	(10)	12	(12)	109	(64)
閲覧者の区分	本学学生	1	(1)	3	(1)	3	(2)	17	(11)	0	(1)	1	()	(25)	(16)
	現教職員	3	(3)	3	(7)	5	(2)	6	(4)	7	(12)	2	(5)	(26)	(33)
	旧教職員	4	()	5	(1)	3	(2)	2	(1)	2	()	3	()	(19)	(4)
	校友	0	()	2	()	0	(1)	1	(1)	2	()	0	(3)	(5)	(5)
	他大学教員	0	()	0	(1)	1	(2)	2	()	2	(3)	1	(1)	(6)	(7)
	牧師	0	()	0	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	()	(1)
	一般	4	(3)	2	(3)	10	(2)	4	(3)	3	()	5	(4)	(28)	(15)
利用の目的	教会史編集	0	()	0	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	()	(1)
	学校史編集	2	()	0	(1)	1	(1)	2	(1)	3	(3)	3	(2)	(11)	(8)
	著述・論文作成	3	(3)	7	(9)	9	(3)	15	(8)	4	(8)	5	(2)	(43)	(33)
	伝記資料調査	1	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	(1)	(7)
	記録類の調査・研究	1	(1)	1	(6)	3	(4)	5	(3)	5	(7)	1	(3)	(16)	(24)
	その他	5	(3)	7	(3)	8	(3)	10	(5)	4	(1)	3	(3)	(37)	(18)
資料の種類	青山学院史関係（AA）	8	(4)	10	(11)	10	(8)	22	(14)	9	(11)	5	(7)	(64)	(55)
	メソジスト教会関係（B）	2	(2)	2	(1)	2	(1)	2	(2)	2	(1)	1	(2)	(11)	(9)
	英語・英文学関係（旧F）	0	()	0	(2)	1	()	0	(1)	0	()	0	()	(1)	(3)
	明治期キリスト教関係（G）	0	(2)	1	(1)	3	(2)	0	()	2	()	2	(2)	(8)	(7)
	一般分類図書	1	(1)	3	()	0	(1)	4	(2)	1	()	1	()	(10)	(4)
	その他	2	()	3	(1)	5	()	4	()	2	(3)	3	(1)	(19)	(5)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数（　）内は前年度の数

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
件数		4	(7)	7	(15)	12	(5)	8	(7)	11	()	4	(6)	46	(40)
質問者の区分	学生	0	()	1	()	0	()	0	()	0	()	0	()	1	()
	現教職員	3	(6)	4	(10)	8	()	5	(7)	6	()	2	(2)	28	(25)
	旧教職員	1	()	0	()	1	()	0	()	0	()	0	()	2	()
	校友	0	(1)	0	(1)	0	(2)	1	()	1	()	1	()	3	(4)
	一般	0	()	2	(4)	3	(3)	2	()	4	()	1	(4)	12	(11)
質問内容	文献所蔵調査	2	(1)	3	(2)	3	(2)	2	(1)	3	()	1	(1)	14	(7)
	写真所蔵調査	1	(1)	3	(1)	6	(1)	2	(1)	2	()	3	(3)	17	(7)
	事項調査	1	(5)	1	(8)	3	(2)	3	(5)	5	()	0	(2)	13	(22)
	その他	0	()	0	(4)	0	()	1	()	1	()	0	()	2	(4)

3. 日誌抄

4月

・特別展「押絵の雛人形展」開催（3/22～4/30）
・女短期大学入学式のため展示公開時間延長（4/2・土）
・展示ホールのグループ見学ご案内　9件
・展示ホールご案内、大学・女子短期大学授業のため　4件
・大学名誉教授来室、原稿作成等のため　4回
・大学教授来室、『青山学報』に資料センター所蔵資料を紹介するための打合せ
・他部署主催会議に出席　2回
・大学図書館へ、明治期基督教図書の一般分類登録作業依頼
・資料センター職員、新人職員研修で講義（青山学院の歴史について）
・資料センター職員、ボクシング部創立88周年記念会に出席
・150年史編纂事務定例打合せ
・大学教授来室、150年史編纂のため　5回

5月

・展示ホール利用（女子短期大学授業のため）
・展示ホールのグループ見学ご案内　3件
・大学名誉教授来室、原稿作成等のため　3回
・2016年度第1回資料センター運営委員会開催
・講師の先生と「展示に関する勉強会」の打合せ
・他部署主催会議に出席
・大学史連絡協議会に出席（於：東京農業大学）
・業者へ、書2点・刺繍額1点修復依頼
・業者へ、絵画4点をカビ殺菌処置依頼（うち、2点を修復依頼）
・150年史編纂事務定例打合せ
・大学教授来室、150年史編纂のため　4回
・国立公文書館へ資料調査（150年史編纂のため）

6月

・展示ホールのグループ見学ご案内　2件

・展示ホール取材　2件（大学新聞部、IVYCS）
・大学父母懇談会等のため展示公開時間延長（6/11・土、6/18・土）
・大学名誉教授来室、原稿作成のため　2回
・来客　5人
・大学職員と資料の保存について相談
・講師の先生と「展示に関する勉強会の打合せ」2回
・第1回「展示に関する勉強会」開催
・大学図書館へ、明治期基督教図書の一般分類登録作業依頼
・高等部同窓会へ高等部卒業アルバム収集に協力を依頼
・150年史編纂事務定例打合せ
・大学教授来室、150年史編纂のため　5回

7月
・展示ホールのグループ見学ご案内　2件
・大学名誉教授来室、原稿作成・校正のため　3回
・大学教授来室、『青山学報』に資料センター所蔵資料を紹介するための打合せ
・テレビ放映のため、所蔵絵画撮影（NHK）
・講師の先生と「展示に関する勉強会」の打合せ
・第2回「展示に関する勉強会」開催
・資料センター職員、國學院大學博物館見学
・『Aoyama Gakuin Archives Letter』14号発行
・大学名誉教授来室、150年史編纂の打合せ
・元高等部部長へインタビュー（150年史編纂のため）
・国立公文書館へ資料調査（150年史編纂のため）
・大学教授来室、150年史編纂のため　7回

8月
・大学教授来室、150年史編纂のため　3回

9月
・展示ホールのグループ見学ご案内　3件
・展示ホール特別開室（大学同窓祭のため、9/22・祝日）
・大学名誉教授来室、原稿作成等のため　4回
・来客3件
・大学図書館へ明治期基督教図書の一般分類登録作業依頼
・他部署主催会議に出席
・短大同窓会へ短大創立期の卒業アルバム収集に協力を依頼
・青山学院防災訓練に参加（9/15）
・150年史編纂事務定例打合せ
・元大学長へインタビュー（150年史編纂のため）
・元総局長へインタビュー（150年史編纂のため）
・大学名誉教授来室、150年史編纂作業の打合せ　2回
・大学教授来室、150年史編纂のため　8回

2016年度前期受入れ 資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈

（敬称略）

●桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」より、『清水安三・郁子研究』第8号　桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」編　2016年3月
●徳永勉（校友）より、『平民之福音』山本軍平著　明治41年3月　（**次頁写真①**）
●フェリス女学院150年史編纂委員会より、『フェリス女学院150年史資料集　第4集』フェリス女学院150年史編纂委員会編　2016年3月
●笹森建英（校友）より、「学童集団疎開：『青山学院緑岡初等学校の学童集団疎開』を読んで」笹森建英著
●笹森勝之助より、『基督教共助会九十年　―その歩みに想う―』基督教共助会基督教共助会九十年記念誌編集委員会編　2012年4月
『アジアの中の日本とキリスト教運動―ナショナルなものと世界的なものの間―』　藤森元著　1983年3月
『60年の歩み―伝道が開始されて113年　大村講義所開設から102年―』　日本キリスト教団大村教会　2007年12月
『日本基督教団玉川平安教会　創立三十周年記念誌』　1966年　ほかキリスト教関係図書　5冊
●清水建設株式会社より、青山学院神学部設計図（電子複写・7枚）清水組設計部設計　昭和4年
●黒沼健（校友・大学名誉教授）より、青山学院大学自動車部　創部70周年記念　ニュージーランド・ラリーキャンプ遠征報告書　[2001年冬]
オリンピック期間中生徒校外生活についての注意　昭和39年（1964年）10月
青山学院大学夏期学校記録　第1部・第2部合同　1983年度テーマ　「悩みの河を渡れ」　1983年7月23日～25日
●中嶋一仁より、「幕末期プロテスタント受洗者の研究（三）―史料に探る村田政矩―」中嶋一仁著　佐賀大学地域学歴史文化研究センター『研究紀要』第10号抜刷　2016年3月
●女子短期大学同窓会より、青山学院女子短期大学同窓会会報　第42春号　2016年4月
●茂木恵・憲司　より、「記念写真：National District Superintendents Conference」June18-19.20, 1916
「祝賀状（メソジスト教会ウェスレー回心二百年記念全国大会）」加藤新一（校友）・加藤千代子　各1点　昭和13年5月29日
「卒業証書（加藤照）」青山学院神学部女子部　昭和16年3月7日
「卒業証書（加藤新一）」東京英和学校　明治26年6月
●柳町敬直より、『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター編　2016年3月
●大学体育会ボクシング部より、『青山学院大学ボクシング部　創部88周年記念誌』　2016年4月
●白戸道子より、小崎千代子（校友）宛「池坊　生花免状」及び関係資料　4点
●滝澤民夫より、「北村透谷と増野悦興のキリスト教認識と信仰」滝澤民夫著　2016年6月（『北村透谷研究』第27号抜刷）
「史料紹介　J.D. DAVISの二通の書簡」滝澤民夫著　2016年3月（『同志社大学同志社談叢』36号抜刷）
●青山学院缶バッジプロジェクトより、熊本地震支援募金バッジby青山学院缶バッジプロジェクト　ロゴA：頑張ろう！九州！心はいつも一緒に　ロゴB：We pray for Kyushu
●大学グリーンハーモニー合唱団OB会より
グリーンハーモニー OB NEWS　No.53　2016年4月
●株式会社アイビー・シー・エスより、『青学サービス社内報』第1号～第115号　1975年11月～2016年5月
（株）青学サービス・たかしお産業（株）機関紙「さあぶ」創刊号～第10号　1993年9月～1998年11月　ほか
●高等部同窓会より、青山学院高等部同窓会報　71号　2016年6月1日
●和田眞(校友)より、『定命　父の喪・母の喪　息子が遺してくれた「生き直す力」』和田眞・和田厚子著　2016年6月　初版　文芸社
●BSN新潟放送より、「にいがた偉人伝　杉本鉞子（校友）」DVD　BSN新潟放送、2016年3月19日放映
●大橋弘（校友）より、青山学院大学神学科関係資料（1967.8～1995.9.15）
『最先の願い』大橋弘著　1973年12月　玉坂書堂
●カールソン（寺田）渓子（校友）より、初等部・中等部歴史ノート、歴史プリント（参考・自学したもの・年表等）ほか
●清水紘一より、「青山学院所蔵の切支丹高札　付.関係史料」清水紘一著　2016年4月（洋学史研究会『洋学史研究』第33号抜刷）
●丸山忠璋より、津川主一旧蔵資料　多数
『津川主一の生涯と業績 ―神と人と音楽とに仕えて』　丸山忠璋著　2016年6月　株式会社スタイルノート
●山上惠子（校友）より、『連作小説集「赫い月」』山上安見子（ペ

ンネーム）著　2015年５月　（株）リトル・ガリヴァー社
初等部卒業記念アルバム　1965～1966年、中等部卒業記念アルバム　1968年
●ボイド･リーディ（元宣教師、元高等部教員）より、チャールズ・アイグルハートの写真　1950年代後半
●川上敬子　（校友）より、初等部・中等部・高等部　卒業記念アルバム　1965～1971年、ほか写真多数
●梶山幸良(校友)より､中学部教科書『学校教練教科書　後篇(術科之部)』 陸軍省兵務科編纂　昭和17年８月　（**写真②**）
●勝野栄一（校友・元高等部教員）より、『The Principles Of Language-Study』H.E.Palmer Translated by Masakazu Kamo　大正12年６月（加茂正一譯）文友堂書店
●雨宮剛（校友・大学名誉教授）より、『玄海人を生きる』 兪華濬(ユ・ファジュン)（校友）著　平成19年６月　初版　西日本新聞社
『もう一つの強制連行　謎の農耕勤務隊　―足元からの検証―』 雨宮剛著　2016年６月　初版
●手代木俊一より、『日本讃美歌・聖歌　研究書誌　2010』 手代木俊一　2011年10月（キリスト教礼拝音楽学会　礼拝音楽研究　No.10　別冊）
●向山康子（校友）より、青山学院初等部卒業アルバム　1966年　　ほか多数
●大学文学部英米文学科同窓会より、会報『Aoyama Sapience』第35号 2016年７月
●一般社団法人キリスト教保育連盟より、『キリスト教保育創始130年記念』DVD　一般社団法人キリスト教保育連盟作成　2016年８月
●河崎早春(校友）より、『明治・東京時計塔記』 平野光雄著　昭和43年６月
●大学　電気電子工学科同窓会より、青山学院大学電気電子工学科同窓会報 第20号　同窓会設立20周年記念号　2016年９月
●大学経営学部より、『青山からはばたくビジネスリーダーへ　～経営学部50周年記念DVD～』青山学院大学経営学部　2016年
●雨宮剛（校友・大学名誉教授）より、『鈴木弼美―神に依り頼む独立人―』 田村光三著　2000年10月
●梅津順一（院長）より､『日本国を建てるもの　信仰･教育･公共性』 梅津順一　著　㈱新教出版社　2016年８月
●女子短期大学同窓会より、青山学院女子短期大学同窓会会報　第42秋号　2016年10月
●他大学・学校　年史・紀要類

購入

●『青山学院高等学部商科卒業記念アルバム』 1933年
●『夏の衛生』藤井かう述　全国母の会本部　出版年不明
●『ははの友』全国母の会会長アレキサンダー著　全国母の会本部　1928、1931年（**写真③**）
●『少年イエスの家庭』宮城春江述　全国母の会本部　出版年不明
●『神佛耶蘇三教裁判』川合清丸著　日本国教大道社　1892年（**写真④**）
●『佛耶優勝劣敗辯』島田軍吉著　1889年（**写真⑤**）

写真①平民之友

写真②学校教練教科書後編（術科之部）

写真③ははの友

写真④神佛耶蘇三教裁判

写真⑤佛耶優勝劣敗辯

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学
青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。
公開時間　月～金曜日　▼9：30～17：00（入館は16：30まで）
　　土曜日　　▼9：30～13：00（入館は12：30まで）

●資料閲覧
青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・ＦＡＸ・メールにてご連絡ください。
閲覧時間（いずれも昼休み11：30～12：30）
　　月～金曜日 ▼9：30～17：00　土曜日 ▼9：30～13：00

●休室日
日曜日･国民の祝日･その他青山学院が定める休日

●問い合わせ
TEL　03（3409）6742　　FAX　03（3409）8134
メールアドレス　ag-archives@aoyamagakuin.jp
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらもご覧ください。
http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/

資料センター運営委員

院長（職務上）		梅津　順一
常務理事１名（職務上）		楯　香津美
学院宗教部長（職務上）		シュー土戸　ポール
大学図書館長（職務上）		近藤　泰弘
大学	教員１人	清水　信行
女子短期大学	教員１人	清水　康幸
高中部（高）	教員１人	佐藤　隆一
高中部（中）	教員１人	森田久美子
初等部	教員１人	窪田　靖
幼稚園	教員１人	矢部　尚子
総局長（職務上）		石黒　隆文
資料センター事務長（職務上）		傳農　和子

資料センタースタッフ人数

資料センター事務：
　専任　3人
　パートタイム　3人
　（述べ週5日・2人）
『青山学院150年史』編纂事務：
　有期職員　1人
　パートタイム　2人
　（述べ週４日･１人）

Aoyama Gakuin Archives Letter
青山学院資料センターだより　15号

2017年3月24日
青山学院資料センター編・発行

印刷：三美印刷㈱
1,500部